

インフォメーション・コーナー

会 告

ポスター賞の決定について.....	66
名称変更を記念するシンポジウム「農業農村工学会に期待する」の開催 	67
第2回産学連携推進セミナー開催 	67
平成20年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再々々）.....	68
平成19年度戦略的研究申請への支援について.....	68
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!.....	68
「農業農村工学会学術基金」の募金について.....	69
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	69
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	69
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）のお知らせ.....	70
農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！.....	71
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「水土の知（農業農村工学会誌：旧/農業土木学会誌）」	
平成20年秋季の表紙写真の募集.....	71
第56回北海道支部研究発表会の開催について（第2報） 	72
第36回中国四国支部研修会・第31回地方講習会の開催について（第3報） 	72
平成19年度中国四国支部シンポジウムの開催について 	74
平成19年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について.....	75
農業農村工学会論文集第251号内容紹介.....	76
学会記事	79

第75巻11号予定

展望：ユビキタス社会に向けての農業農村分野のGIS研究：大政 謙次

小特集：農業農村分野のGIS（研究事例）

GISを用いた乾燥地における緑化ポテンシャルの推定：豊田 裕道他

50mメッシュ標高を用いた集落の孤立可能性評価：吉田 貢士他

灌漑管理に関する空間情報を取り込んだ水文モデルの開発：星川 圭介他

農業水利システムの保守履歴管理GISシステムの構築：井上 敬資他

GISを利用した農地すべり災害の点検支援システム：中里 裕臣他

技術リポート

北海道支部：高置換酸度地帯に対する心土肥培改良技術：佐々木祐二他

東北支部：ため池整備における洪水吐取水施設一体型の施工事例：佐藤 隆志

関東支部：種足野通川（たなだれやどおりがわ）地区における環境配慮事例：中島 静夫他

京都支部：ワークショップ手法によるため池の整備計画の作成：船本 健正

中国四国支部：地すべり地域冠頭部における地下水排除工の優先度：高木 圭介

九州支部：国営かんがい排水事業「筑後川下流地区」の排水管理：吉田 智之

講座：止水性昆虫を対象とした生態学における基礎調査法：日鷹 一雅

小講座：WEB GIS：島 武男

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

のマークは、農業土木技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成19年10月26日	資源循環研究部会	平成19年度研究発表会 		東京都	75巻48号
平成19年10月25, 26日	中国四国支部	第62回研究発表会 		宇和島市	75巻67号
平成19年10月30日	北海道支部	第56回研究発表会 		札幌市	75巻9,10号
平成19年10月31日	東北支部	第51回研究発表会 		福島市	75巻8,9号
平成19年11月1日	東北支部	第41回支部研修会 第31回地方講習会 		福島市	75巻8,9号
平成19年11月7, 8日	関東支部	第58回支部講演会 		水戸市	75巻6,8号
平成19年11月8, 9日	京都支部	第64回研究発表会 		和歌山市	75巻6,7号
平成19年11月8, 9日	水文・水環境研究部会	第20回シンポジウム 	農林地および広域の水文・水環境	岡山市	75巻5号
平成19年11月15, 16日	中国四国支部	第36回支部研修会 第31回地方講習会 		広島市	75巻6,7,10号
平成19年11月29日	行事企画委員会	名称変更を記念するシンポジウム 		東京都	75巻8,9号
平成19年12月4日	北海道支部	第34回研修会・第31回シンポジウム 		札幌市	75巻9号
平成19年12月6日	中国四国支部	平成19年度中国四国支部シンポジウム 	これからの農業土木技術者のあり方～他分野を踏まえた新たな事業展開～	岡山市	75巻10号
平成19年12月6, 7日	農村道路研究部会	平成19年度農村道路研究集会 		大阪市	75巻8号
平成19年12月10, 11日	応用水理研究部会	平成19年度講演会 	農業土木分野における応用水理学に関する研究	岐阜市	75巻9号
平成19年12月12日	行事企画委員会	第2回産学連携推進セミナー 		東京都	75巻10号
平成20年1月31日	北海道支部	地方講習会 		札幌市	

ポスター賞の決定について 平成19年度農業農村工学会大会運営委員会

昨年に引き続き、農業農村工学会大会講演会（会場：島根大学）において、ポスター発表を試行致しました。41名の方が発表され、投票により次のとおり「優秀ポスター賞」5名、「大会運営委員長ポスター賞」1名が決定し、野中大会運営委員長より賞状が授与されました。

優秀ポスター賞

- 「コンテナウィックサンブラーによる砂丘畑降下浸透水の採取
裸地圃場における長期運用試験」
口頭発表者：鳥取大学大学院農学研究所 古崎 智子
- 「暗渠管の洗浄と排水機能の診断」
口頭発表者：専修大学北海道短期大学 山梨 光訓

「棚田畦畔のり面の水移動動態調査」

口頭発表者：近畿中国四国農業研究センター 吉村亜希子

「循環灌漑を実施する水田流域の物質収支」

口頭発表者：京都大学大学院農学研究科 濱 武英

「生態系保全型圃場整備が谷津田内の魚類・カエル類の食性に及ぼす影響」

口頭発表者：東京農工大学連合大学院 松澤 真一

大会運営委員長ポスター賞

「環境マテリアル工学（土木材料学）実験の指導法とその教育改善
四半世紀にわたる教育実践から」

口頭発表者：北里大学獣医学部 細川 吉晴

名称変更を記念するシンポジウム「農業農村工学会に期待する」の開催

農業農村工学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 趣 旨

当学会は、農業土木学会として、80年に及ぶ活動を継続してわが国の農業、農村ひいては社会の発展に貢献してきました。近年の農業、農村を取り巻く急激なさまざまな変化への対応のため、学会会員の研究領域、活動の場は、“農業土木”が喚起するこれまでのイメージに収まらない領域まで拡大してきました。

そこで、学会は新たな理念、「新たな水土の知の定礎をめざして」を策定し、この理念の実現に向けた旗印としての学会名称を変更し、6月29日、文部科学大臣より社団法人農業農村工学会として認可されました。

この新たな出発に当たり、外部有識者を含む方々から講演をいただき、会員認識を新たにし、意見交換を行う場を設けることとしました。

2. シンポジウムの開催概要

1) 日時 平成19年11月29日(木) 14:00~17:25

2) 場所 KKRホテル東京 11F「孔雀の間」

東京都千代田区大手町1-4-1

3) 参加費無料

4) 次第

14:00~14:15 開会挨拶

農業農村工学会長 青山 咸康

講演

14:15~15:00 基調講演1「農業農村工学会に期待する」

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 林 良博

15:00~15:45 基調講演2「農業農村工学会へ行政技術陣としての期待」 農林水産省農村振興局長 中條 康朗

15:45~16:00 休憩

16:00~16:40 懸賞論文表彰 3件(予定)

16:40~17:20 パネルディスカッション

座長 京都大学名誉教授 三野 徹

17:20~17:25 閉会

3. 情報交換会の開催概要

1) 日 時 平成19年11月29日(木) 17:30~19:00

2) 場 所 KKRホテル東京 10F「瑞宝の間」

3) 参加費 一人3,000円

4. 申込方法

学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)の「各種行事参加申込書」に必要事項を記入の上、FAX(03-3435-8494)またはE-mail(hanatsuka@jsidre.or.jp)で、平成19年11月12日(月)までにお申込み下さい。また情報交換会に参加される方は「各種行事参加申込書」の「備考欄」にその旨記入して下さい。

定員(100名)に達し次第締切とさせていただきます。

5. 問合せ先

(社)農業農村工学会 花塚・庄田

☎03-3436-3418 E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp

第2回産学連携推進セミナー開催

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



グローバルな国際競争社会の中で、わが国が豊かな社会を維持していくためには、「知の時代」を迎えたことを踏まえ、知的な資源のネットワーク化が急務です。大学等も、教育と研究等の学際的な活動に加えて、他の機関と連携し、共同研究や受託研究を行うなど、国内外の各方面との多様な連携を推進し、新しい技術の創出に貢献する視点が必要となっています。農業農村工学会は、関連する大学等の研究室と民間企業との情報交換等を仲介して、産学連携の推進を図るため、昨年に引き続き第2回産学連携推進セミナーを下記の要領で開催いたします。

記

1. 日時 平成19年12月12日(水) 10:00~18:30

2. 場所 農業土木会館6F大会議室

3. 主催 社団法人農業農村工学会

後援(予定)

水土の知 75(10)

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所

社団法人土地改良建設協会

社団法人農業土木事業協会

4. プログラム(予定)

(1) プレセッション - 民間企業技術紹介 -

(2) 産学連携セミナー

競争的資金、官民連携事業等の紹介

産学連携の事例

大学等による農地・水・環境保全、ストックマネジメント等に関する研究企画の紹介

(3) ポスターセッション

(4) 情報交換会

5. 報告の内容(昨年の例)

大学等からは関連民間企業に興味があると思われる研究テーマを紹介

午前中のプレセッションでは、希望する民間企業が技術紹介。参加する大学等や行政機関等の関係者が興味のある技術を紹介。

研究室ごと、民間企業ごとの説明は、原則としてパワーポイ

ントを使用。発表時間は5~10分。

民間企業等の参加者に、発表した大学等研究室のテーマと研究者名・住所・TEL・FAX・E-mailなどのリストを配布

6. 問合せ先

社団法人 農業農村工学会調査研究部

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

平成20年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再々々)

平成20年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く。)を、第75巻6号, p 83の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成19年10月末日となっております。推薦書様式は学会HPをご参照下さい。

平成19年度戦略的研究申請への支援について

平成19年度(第2回)戦略的研究申請への支援は、研究委員会および研究委員会戦略的研究推進小委員会において、下記の5件を認定し、支援することとした。

テーマ 農業農村工学分野における実利用を想定した高解像度衛星画像の活用に関する研究

代表者 鈴木 研二

テーマ コロイド界面科学を機軸とする土壌・地下水汚染対策の工学基盤の創生と展開

代表者 足立 泰久

テーマ 現場農地から大気への窒素フローの測定とその広域的推定

代表者 飯田 俊彰

テーマ 有明海流域の非点源汚染負荷の地球化学的推定と湾内動態の解明

代表者 白谷 栄作

テーマ 極限環境下土壌の応答解析を用いた環境維持機能の評価・増進

代表者 西村 拓

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPD、また、通信教育で最大年間18CPD取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(TEL.03 5777 2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成18年度までに43件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058 口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

農業農村工学会災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年毎更新）に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下

のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES）は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2007年9月末にはVol 5, No 3が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）

- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流，情報交換の場として，皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと，会員には国際ジャーナルが，年4回無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊，以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000 円/年/4 冊(送料等学会負担)

学生会員（院生含む）8,500 円/年/4 冊(送料等学会負担)

申込先：農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

入会のお申込は，学会ホームページ（http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm）の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ，メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）は，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2007年9月末には Vol 5, No 3 が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に，SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており，本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また，世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は，Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが，**投稿料，掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等 である。

編集体制 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31)

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！

農業農村工学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ

に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 76 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 げ 4 ページ厳守)
76 巻 1 号 農業水利施設の大規模地震対策の取組みについて (仮)	公募終了	平成 19 年 10 月 15 日
2 号		
3 号 基幹水利施設のストックマネジメント (仮)	公募終了	平成 19 年 11 月 15 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷り上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、**刷り上がり 1 ページ**(1,800 字程度) で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れて下さい。

私の薦める本は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内(1,200 字) で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知 (農業農村工学会誌 : 旧 / 農業土木学会誌)」平成 20 年秋季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成 20 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で「水利遺構 : 先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第 76 巻(平成 20 年 1 ~ 12 月号)のうち、特に秋季の表紙写真を募集します。奮ってご応募下さい。

記

1. 趣 旨

これまで農業農村工学技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込む

ことで、その美しさに磨きがかかってくるようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで (デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定) 撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

3. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成19年12月27日(秋季の写真)

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写

真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

第56回北海道支部研究発表会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期日 平成19年10月30日(火)9時30分~17時(予定)

2. 会場 札幌市・北海道大学学術交流会館2階講堂
(札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ)

3. 参加申込

下記様式により、E-mail、FAXまたは郵送にてお申し込み下さい。

参加申込締切は平成19年10月19日(金)です。

所属機関 _____

同上所在地 _____

申込代表者 _____

TEL _____

氏名	所属	備考

4. 参加申込先

〒060 8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一 E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

☎011 706 3641 FAX 011 706 2494

5. 参加費

研究発表会参加費 2,000円(当日会場にて申し受けます。)

第36回中国四国支部研修会・第31回地方講習会の開催について(第3報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



中国四国支部第36回支部研修会・第31回地方講習会を11月15日(木)、16日(金)の2日間にわたり、開催します。本研修会・講習会の開催要領・参加申込については、下記のとおりです。多数のご参加をお待ちしております。

記

1. 課題

- (1) 支部研修会：『持続可能な農業構造の確立に向けて』
- (2) 地方講習会：『「農業水利施設の機能保全の手引き」の解説』
『「農業用ダム機能診断マニュアル」の解説』
『土地改良事業における費用対効果分析手法の見直し』
『土地改良事業計画設計基準「ほ場(畑)」の解説』
『土地改良事業計画設計基準「計画ほ場整備(水田)」追補の解説』
『土地改良事業計画設計基準「計画農道」追補の解説』

2. 日時

- (1) 支部研修会：平成19年11月15日(木)10:30~17:00
(2) 地方講習会：平成19年11月16日(金)10:00~15:00

3. 場所

広島YMCAホール

〒730 8523 広島市中区八丁堀7-11

☎082 227 6816 FAX 082 227 3867

4. プログラム

(1) 11月15日(木)支部研修会

テーマ「持続可能な農業構造の確立に向けて」

9:30~ 受付開始

10:30~10:50 開会あいさつ

11:00~12:00 「持続可能な農業構造と集落営農」

東京大学大学院准教授安藤 光義

12:00~13:00 [昼食]

13:00~13:50 「元気な広島島の農業を目指して」

広島県農林水産部農業活性化推進室

主任主査 寺本 克彦

13:50~14:40 「6次産業がキーワード せら高原の活性化運動」

世羅高原6次産業推進協議会

コーディネーター 後 由美子

14:40~14:50 [休憩]

14:50~15:30 (仮題)「農業農村資源保全管理事業の取組みについて」

広島県芸北地域事務所農林局農村整備第一課

事業推進員 進藤 哲志

15:30~16:10 (仮題)「北広島町における集落法人の取組みについて」

広島県北広島町産業課課長補佐

佐渡 宏治

16:10~16:50 (仮題)「集落法人と大型稲作農家との連携」
株式会社大朝農産代表取締役 上長者俊孝

16:50~17:00 閉会あいさつ

(2) 11月16日(金) 地方講習会

『「農業水利施設の機能保全の手引き」の解説』

『「農業用ダム機能診断マニュアル」の解説』

『土地改良事業における費用対効果分析手法の見直し』

『土地改良事業計画設計基準「ほ場(畑)」の解説』

『土地改良事業計画設計基準「計画 ほ場整備(水田)」追補の解説』

『土地改良事業計画設計基準「計画 農道」追補の解説』

9:00~ 受付開始

9:30~ 9:40 閉会あいさつ

9:40~11:00 『「農業水利施設の機能保全の手引き」の解説』
島根大学生物資源科学部教授 長束 勇

11:10~12:00 『「農業用ダム機能診断マニュアル」の解説』
農村振興局整備部設計課農業土木専門官
西野 徳康

12:00~13:00 [昼 食]

13:00~13:50 『土地改良事業における費用対効果分析手法の見直し』
農村振興局企画部事業計画課
課長補佐 利根 基文

14:00~14:50 『土地改良事業計画設計基準「ほ場(畑)」の解説』
『土地改良事業計画設計基準「計画 ほ場整備(水田)」追補の解説』
『土地改良事業計画設計基準「計画 農道」追補の解説』
農村振興局企画部資源課
課長補佐 増尾 学

14:50~15:00 閉会あいさつ

講師の都合により、講演テーマ等を変更する場合があります。

5. 参加費等

(1) 支部研修会

区 分	参加費	昼食代	合 計
会 員	3,000円	1,000円	4,000円
非会員	4,000円	1,000円	5,000円

(2) 地方講習会

区 分	参加費	昼食代	合 計
会 員	4,000円	1,000円	5,000円
非会員	5,000円	1,000円	6,000円

6. 問合せ先

広島県農林水産部農林整備局農業基盤室企画調査グループ
上田, 山脇

〒730 8511 広島市中区基町 10 52

☎082 513 3649(直通) 082 228 2111(代表)

FAX 082 228 1301

E-mail: noukiban@pref.hiroshima.lg.jp

7. 参加申込方法

(1) 申込書 所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、お申し込み下さい。

(2) 申込締切日 平成19年10月31日(水)

(3) 参加費の納入方法 銀行振込又は当日支払いです。どちらで納入するか申込用紙にご記入下さい。

なお、振込み後の参加費用等の返還には応じられませんのでご注意ください。

【申込様式】

中国四国支部研修会・地方講習会参加申込書

所属機関

所在地(〒)

連絡者氏名

TEL

FAX

所属	氏名	会員 区分	【15日】	【15日】	【16日】	【16日】	合計 (円)	農業土木 技術者継続 教育機構 個人会員	支払 方法
			支部研修会 3,000円 (4,000円)	昼食代 1,000円	支部講習会 4,000円 (5,000円)	昼食代 1,000円			
									振込 or 当日
計		会員 非会員	人 人	人 人	人 人	人 人	円		

注) 出席および必要な場合は 印, 欠席および不要な場合は×印をご記入下さい。

() : 非会員

農業土木技術者継続教育機構の個人会員の方は右端の欄に をご記入下さい。

振込手数料については、振込人負担でお願いします。

【振込口座】振込先 広島銀行 県庁支店

口座番号 普通 3027139

口座名称 支部研修会 地方講習会

実行委員会 上田 浩司

(4) 参加申込先

広島県農林水産部農林整備局農業基盤室企画調査グループ
上田, 山脇

〒730 8511 広島市中区基町 10 52

☎082 513 3649(直通) 082 228 2111(代表)

FAX 082 228 1301

E-mail: noukiban@pref.hiroshima.lg.jp

8. 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお申し込み下さい。

9. 交通アクセス案内

JR 広島駅より 市内電車約 15 分 立町電停より 徒歩約 3 分

広島空港より リムジンバス約 60 分 広島バスセンターより

徒歩約 7 分

平成 19 年度 中国四国支部シンポジウムの開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



中国四国支部では、農業農村工学会へ名称変更したことを契機とし、学会支部の役割と機能を再検討すべきと認識しており、若手技術者の農業土木事業への真の興味と情熱を喚起し、支部の更なる発展が図られるようシンポジウムを開催します。

会員各位のみならず、広く技術者が参加できますので、ふるってご参加下さるよう、お知らせ申し上げます。

記

1. 主催 中国四国支部
2. 後援 中国四国雑草研究会、中国四国農政局
3. テーマ これからの農業土木技術者のあり方～他分野を踏まえた新たな事業展開～
4. 期日 平成 19 年 12 月 6 日（木）
5. 会場 ビュアリティまきび
〒700 0907 岡山市下石井 2 6 41
☎ 086 232 0511 FAX 086 224 2995
6. プログラム
 - 12:30～13:15 受付
 - 13:15～13:20 開会挨拶
 - 13:20～14:50 基調講演「一般社会から見た農業土木」
株式会社オルタナティブコミュニケーションズ
コミュニケーション戦略研究所所長
金子 照美
 - 14:50～15:50 基調講演「外来生物の存在と農業農村整備」
岡山大学大学院環境学研究所教授 沖 陽子
 - 15:50～16:00 休憩
 - 16:00～17:15 パネルディスカッション
「これからの技術者像について語ろう」
パネリスト+コーディネーター（中国四国農政局設計課 鈴木 豊志）
*パネリストは、事前（11:30～12:30）に若手技術者（おおむね 35 歳以下）を中心にグループ討論を行い、各グループの討論内容を壇上で発表して頂く代表者を想定しています。
 - 17:15～17:20 閉会挨拶
 - 17:45～ 情報交換会

7. 参加費 無料

8. 情報交換会 別会場にて開催。会費は 3,500 円程度（当日現金にて支払い）。

9. 参加申込および連絡先

〒700 8532 岡山市下石井 1 4 1

岡山第二合同庁舎

中国四国農政局整備部設計課事業調整室

鈴木、高岡

☎ 086 224 4511 (ex 2611) FAX 086 234 7445

10. 参加申込要領

整理の都合上、11 月 2 日（金）まで下記様式により「FAX」または「郵便」でお申し込み下さい。（農業農村工学会員以外の方も参加できます。）

氏名 (農業農村工学会 CPD 番号)

所属機関・役職

所在地

電話番号

FAX 番号

農業農村工学会以外に加入している学会

（シンポジウムを効果的に運営させることのみを使用させていただきますので、ご協力頂ける方は記入願います。）

<以下、該当するものに をして下さい。>

グループ討論（11:30～12:30）への参加

<おおむね 35 歳以下の方に限らせていただきます。>

参加 ・ 不参加

情報交換会への参加

参加 ・ 不参加

*なお、中国四国農政局主催の「技術研究等報告会」との連携行事となっています。（技術研究等報告会は、農政局職員の意識の高揚および技術能力の向上並びに国営事業の効率的な推進を図ることを目的として、毎年、農政局で開催しているものであり、今年度は、12 月 6 日（木）午前中、12 月 7 日（金）午前中にシンポジウムと同会場にて開催されます。参加費無料でどなたでも聴講できます。）

中国四国農政局「技術研究等報告会」への聴講

(6 日 AM)

参加 ・ 不参加

(7 日 AM)

参加 ・ 不参加

平成 19 年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について
材料施工研究部会

材料施工研究部会では、平成 15 年 2 月発刊の図書「建設材料
地域環境の創造」の出版記念行事の一環として「研究奨励基金」
を設け、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待で
きる研究発表を表彰いたします。平成 19 年度農業農村工学会材料
施工研究部会研究奨励賞の候補を下記の要領で公募いたしますの
で、会員各位には自薦または他薦による応募をお願いいたします。

平成 19 年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞募集要領

1. 対象者

- (1) 農業農村工学会の正会員または学生会員であること。
- (2) 該当する研究の主体者でかつ発表者または第一著者である
こと。
- (3) 既受賞者は 3 年間選考対象から除く。

2. 対象研究発表

- (1) 平成 17 年 4 月から平成 19 年 3 月までに発行された農業土
木学会論文集または農業農村工学会論文集および学会誌、農
業土木学会大会講演会、部会シンポジウムの材料施工関連分
野で発表された研究であること。
- (2) 発表された研究は、材料施工関連分野の新たな発展に寄
与することが期待できる内容であること。
- (3) 材料施工関連分野とは、材料、施工、応用力学および土質
力学部門などを指す。

3. 応募資料

- (1) 申込書 1 部 (A4 用紙 1 枚程度。ただし、書式は任意)

候補者の 氏名、所属機関名、役職、生年月日、会
員番号、連絡先(住所、TEL、FAX、E-mail)および 候
補となる研究発表の概要(著者、題目、発表誌名、巻・号・
頁、発表年月)、推薦理由、を A4 用紙 1 枚程度で明記し
たもの。他薦の場合は、推薦者に関する ~ も併せて明記
すること。

- (2) 候補となる研究発表 3 部 (コピー可)

応募資料は、何れも返却しない。

4. 応募締切 平成 19 年 11 月 23 (金)

5. 応募先

〒783 8502 高知県南国市物部乙 200

高知大学農学部 篠 和夫

(☎088 864 5162 E-mail : shino@kochi-u.ac.jp)

6. 審査

農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞選考委員会が
審査し、1~3 点の奨励賞を選定する。審査結果は、平成 20
年 1 月中旬までに受賞者に通知する。

7. 表彰

奨励賞に選定された研究発表は、平成 20 年 2 月に開催予定
の本部会シンポジウムにおいて表彰するとともに副賞を授与
する。また、表彰の結果は部会報などで公表する。

8. 問合せ先

応募先と同じ。